

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 40

学校名・団体名	大野町立中小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域とのつながりの中でたくましく生きる児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>中小学校は、岐阜県西部、濃尾平野西北端の揖斐郡大野町中部に位置し、水田や柿畑等の農業生産を営む農村地帯に囲まれている。開校145年を迎えた本校は、全校児童144名の小規模校である。</p> <p>学校所在地である「鶯地区」は、古くは「鶯村」と呼ばれ、自然・歴史・文化を大切にしてきた地区である。近年、三世代同居の家族の家庭と住宅地に転居した核家族の世帯が混在するなど、校区の様子も徐々にではあるが変わりつつあるのが現状である。</p> <p>これまで本校では、地域の自然・文化・歴史・環境・福祉をテーマとした生活科や総合的な学習の時間をはじめ、様々な活動を地域と連携して推進してきた。今後、校区の状況が変化する中でも、地域人材や地域の教育力を一層積極的に活用し、学校の教育活動を充実させたいと考えた。</p> <p>そこで、大人になっても、「ふるさと『鶯地区』を大切にし、『鶯地区』で暮らしたい」という気持ちを強くもった、「心豊かにたくましく生きぬく児童」の育成を目指した教育活動を、地域の願いとともに積極的に展開したいと考え、体験活動と表現活動を中心に構想した。特に、ふるさと「鶯地区」の「ひと・こと・もの」と積極的に関わる体験活動を通して、「鶯地区」の自然・歴史・文化等についての理解と愛着を深めるとともに、自然・伝統文化を進んで継承する心情を養うことを目指して実践した。</p>	

1 はじめに

今年度、ふるさと鶯地区に関する「総合的な学習の時間」では、地域と連携した体験活動を柱とし、地域の自然や伝統・文化等について、児童が実感を伴って理解し、自分の住む鶯地区への誇りと愛着を一層高めることを目指してきた。

特に、今回の助成によるICT機器（iPad等）の導入により、児童の主体的に学ぶ意欲を一層高めることや、効果的かつ豊かな表現活動を充実させることができるよう実践を重ねてきた。

また、併せて各教科等においても、積極的なICT機器の活用にも努めてきた。



2 総合的な学習の時間における実践について

「鶯地区の歴史」に関する学習では、地域講師を招いて地域に伝わる用水整備に関する歴史・人物について、講話を聞くことができた。また、学んだ内容を劇にまとめて表現することにし、助成を受けたiPadを活用して劇の様子を動画にし、それを見ながら練習を重ねることができた。これまでは、「ここに気を付けて動きなさい。」と言われても分かりづらかったことが、iPadで自分の動きを確認することで、児童が自らの演技を客観的に振り返ることが可能となり、自信をもって演技をすることができるようになった。

その成果を、11月4日の公民館祭りで地域へ向けて発信することができた。



全校朝会で劇の発表



劇の練習の様子を振り返る



地区公民館祭りで劇の発表

その他、第3学年では「柿作り体験学習」、第5学年では「米作り体験」、第6学年では「福祉活動体験」を通して、地域について学び、地域についての理解を深め、愛着をもつ心情を育むことを目指した。特に、主体的に学ぶ体験学習の位置付け、調査活動や表現活動におけるICT機器の積極的な活用を意図的に行った。

3 各教科等での活用について

総合的な学習の時間での活用以外では、体育科をはじめとする教科学習において、iPadを積極的に活用し、小規模校である本校の児童も、自信をもって生き生きと学習活動に取り組むことができた。例えば、体育科では、ハードルに関する基礎的な運動や走り高跳び、マット運動などにおいて、客観的に自分の運動の様子を動画で確認しながら学習を進めることができた。また、特別支援教育では、発達障がいのある児童への個別指導の際に、生徒指導面では、不登校傾向にある児童への個別支援の際に、積極的に活用することで、児童のニーズに応じることができた。



4 実践の総括と今後の実践

今回の助成により導入できたiPadは、総合的な学習の時間に限らず、あらゆる教育活動において、児童が主体的に活動に参加するという、関心・意欲や態度の喚起を促すことができるアイテムであることが実証された。また、iPadを教科や総合的な学習の時間等で活用したことで、児童のICTに関する技能面でのスキルアップや、より効果的な機器活用の在り方について、児童と教師とで積極的に実践を重ねることができた。

今年度、地域と連携した体験活動を柱とした学習の取組を通して、ふるさと鶯地区を愛し、大切にしたいという心情や態度を養うことに寄与することができたのではないと思う。そして、地域とのつながりの中で、たくましく生きる児童の姿に迫ることができた実践であったとも思う。

今後も、今回の助成を受けて導入したICT機器等を各教科等で積極的に活用し、その実践内容については、継続的に本校のホームページ上や学校だより等で、広く発信していきたいと考えている。